

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立豊浜中学校  
(豊浜中学校区)

全国平均値との差

	国語	数学
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+5.0	+5.0
令和8年度	—	—
令和7年度	—	—
令和6年度	+8.9	+19.5
令和5年度	+0.2	+10.0
令和4年度	+5.0	+14.6

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

<p><b>国語</b></p> <p>本校 <u>67%</u> 全国 <u>58.1%</u> 県 <u>58%</u></p> <p>話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 言葉の特徴や使い方 我が国の言語文化 情報の扱い方</p>	<p><b>重点課題</b></p> <p>◎表現技法を理解して使うことに課題がある。(設問4(一))【(1)言葉の特徴や使い方に関する事項】(正答率33.3%)</p> <p>◇漢字や語句の意味や役割, 表現技法などの言葉の特徴や使い方の基礎的な知識が十分に定着していない。【設問3(二)(正答率44.4%)】【設問4(一)(正答率33.3%)】</p> <p><b>改善の方策</b></p> <p>◎1つ1つの語句が持つ言葉の意味を自分で調べ, その語句の文章中における役割について深く考え, 説明し合う学習の場を設定する。</p> <p>◇AI型デジタルドリル「キュビナ」を活用し, 該当学年より前の学年にもどってスパイラルに復習に取り組み, 基礎的な知識の定着を図る。また, 読書活動を通して, 文脈に即した語句の意味を捉えさせる。</p> <p><b>検証</b></p> <p>◎全国学力調査問題(設問4(一)) (第3学年 11月) 目標 第3学年70% →結果 第3学年40%</p> <p>◇全国学力調査問題(設問4(一)) (第2学年 11月) 目標 第2学年60% →結果 第2学年33.3%</p>
<p><b>数学</b></p> <p>本校 <u>72%</u> 全国 <u>52.5%</u> 県 <u>52%</u></p> <p>数と式 図形 関数 データの活用</p>	<p><b>重点課題</b></p> <p>◎複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(設問7(2))【データの活用】(正答率33.3%)</p> <p>◇判断の理由を数学的な表現を用いて説明【設問7(2)(正答率33.3%)】したり, 問題解決の方法を数学的に説明【設問8(2)(正答率33.3%)】したりするために必要な既習の知識が十分定着していない。</p> <p><b>改善の方策</b></p> <p>◎四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味の理解を深め, 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り, 批判的に考察したり判断したことを説明したりする学習を設定する。</p> <p>◇AI型デジタルドリル「キュビナ」を活用し, 該当学年より前の学年にもどってスパイラルに復習に取り組み, 基礎的な知識の定着を図る。</p> <p><b>検証</b></p> <p>◎全国学力調査問題(設問7(2)) (第3学年 12月) 目標 第3学年60% →結果 第3学年50%</p> <p>◇全国学力調査問題 (第3学年 12月) 目標 第3学年80% →結果 第3学年76.3%</p>

**【来年度に向けて】**

AI型デジタルドリル「キュビナ」を活用したスパイラルな学習により, 基礎的な知識の定着については一定の成果が見られたため, 若干ではあるが正答率が向上している。しかし, 既習事項を用いて思考し, 説明し合う活動の場を授業の中に十分設定することは容易ではなく, 目標の数値にまでは達していない。次年度に向けて週末課題(活用問題)やワークブックの配信を利用したキュビナ(AI教材)学習に継続して取り組み, 定期的に検証しながら改善を図る。